

特集

新入生へ



YU-INFORMATION
No.122
山口大学広報誌



3
2015

contents

03

今月の特集 | 新入生へ

創基200周年！新たな歴史の創造へ。

“新生”山口大学を語る

山口大学 学長 岡 正朗



cover story

[今月の表紙]

山口大学の北東に小高い丘があり、「共育の丘」と呼ばれ、そこからは、麓に広がる山口大学や平川地区を見下ろすことができ、山口大学の学生、教職員だけではなく、地域の方達にも親しまれています。

頂上には「Gravitation(知の集積)」と名付けられた石造りの大きなモニュメントや東屋、本学の留学生の出身都市名が彫られている石彫方位盤が配置されています。

広場の一角に「己を発見し、育み、形にする 知の広場 山口大学」が彫り込まれた石碑もあり、山口大学のモットーを感じることができます。

創基200年を迎え、モニュメントを見上げる二人は、どんな未来を想っているのでしょうか。

06

[山口大学創基200周年 特別対談]

山口大学で学ぶということ。

山口大学 理事・副学長 田中 和広

山口大学 人文学部長 根ヶ山 徹

09

未来を切り拓くグローバル人材育成に向けて

山口大学教授 大学教育機構 留学生センター長 福屋 利信

12

リケジョのススメ センパイinterview

未知の世界を解き明かす研究の面白さを伝えたい

山口大学理工学研究科
地球科学専攻博士前期課程(修士課程)2年
藤井 美南

13

What's New? YU-PRSS

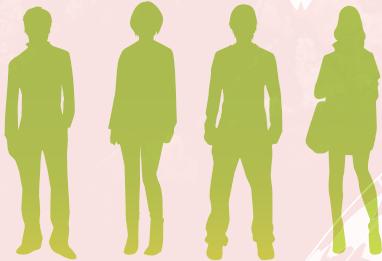
14

EVENT SCHEDULE

文責：株式会社 無限

新入生へ

Dear Incoming Freshmen



2015年 山口大学は創基200年を迎え、綿々と続く山口大学の歴史の中でも、特別な1年が始まっています。時の巡り合わせで、この年に山口大学に進学された新入生の皆さん、母校となる大学の歴史に思いを馳せながら、これから広がる自分の未来を想像してください。それを実現するための方法は、山口大学での学びの中にたくさんあります。特集では岡学長、田中理事、根ヶ山人文学部長、福屋留学生センター長に語っていただいた、新入生・在学生・山口大学を目指す皆さんへの「熱いメッセージ」をお届けします。



SPECIAL FEATURE 01
Oka Masaaki

SPECIAL FEATURE 02
Tanaka Kazuhiro



SPECIAL FEATURE 02
Negayama Tohru



SPECIAL FEATURE 03
Fukuya Toshinobu



新入生へ

SPECIAL
FEATURE

創基200周年!
新たな歴史の創造へ。

語る 山口大学を ”新生“



期待に胸を膨らませて入学した新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活をスムーズにスタートすることができているでしょうか？ 山口大学は今年、創基200周年という大きな節目の年を迎えました。これまでの長い歴史と伝統を受け継ぎながら、新しい時代へ向けて大胆な改革をスタートさせています。未来へ向けて大きな一歩を踏み出す“新生山大元年”にあたり、新入生の皆さんへ、岡学長のメッセージをお届けします。

“
　　チャレンジ精神に
満ちた知の広場に
新たな風を！
”



皆さんの母校となる山口大学は、1815(文化12)年、長州藩藩士の上田鳳陽先生によって設立された私塾「山口講堂」を前身とし、これまで山口県における高等教育を担ってきた誇りある大学です。現在9学部9研究科を擁する、地域の基幹総合大学にまで大きく発展しました。

本学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」は、日本初のグローバル人材ともいるべき長州ファイブ※1のチャレンジ精神を受け継いだものであり、広く世界に目を向け、国際社会や地域社会に貢献する人材の育成を目指しています。本学は、地域に根ざした伝統校であるという意識のもと、学生や教職員が力を合わせ、苦しみや喜びを分かち合いながら、共に成長していく、共同・共育・共有の精神“山大スピリット”を大切にしています。

今年は、創基200周年という記念すべき節目の年に当たります。新入生の皆さんも、これから山口大学の新たな歴史を刻まれることと大いに期待しています。

グローバル化を見据えた 大学改革をスタート！

近年、急激な社会構造の変化を背景に、産業界をはじめとする各分野において大学改革への期待が高まっています。本学も、時代の要請にいち早く応えるため、グローバル化を見据えた大胆な改革を行っています。そのエンジンと位置づけているのが、今年4月からスタートする新学部「国際総合科学部」です。全国の国立大学法人の中で新学部が認可されたのはわずか2大学。まさに、本学は大学改革の先頭を切ったといえます。

国際総合科学部では、高いコミュニケーション能力と課題解決能力、文理融合的な幅広い学識を身に付けた人材の育成を目指しています。カリキュラムの大きな特徴として、2年生の後期から始まる1年間の海外留学が挙げられます。この留学は交換留学となるため、本学における1学年100名は留学生となります。もう一つの特徴は「プロジェクト型課題解決研究」です。これは、地域に密着した一種のインターンシップです。地方自治体や企業の課題を抽出し、分野の異なる人々の多様なアイデアや意見をチーム内で共有し、さまざまな知識や手法を用いながら、地域の課題を解決したり、新たな価値を創造したりといった、より実践的な学びを開いていきます。

この新学部の設置を皮切りに、そのほかの学部の改組や再編なども行い、全学的な改革を推し進めていく予定です。

学びの好循環を創出する

本学では、教員による一方方向の講義形式とは異なる、学生の能動的な学習への参加を取り入れたアクティヴ・ラーニング※2を1年次から展開しています。平成26年度、文部科学

省の「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取り組みは、共通教育を中心とする課題探求型の科目や、正課外教育の先駆けであるおもしろプロジェクト※3など、正課教育と正課外教育の共創によって実現されます。今後は、共通教育すべてのアクティヴ・ラーニング化、インターンシップやボランティア活動などに対する単位認定なども視野に入れており、学生の主体的な学びを全学体制で推進していきます。

また、教育の質の向上を目指した取り組みも行っています。これまであいまいだった学修成果の可視化モデルを構築し、試験の点数だけでは分からなかった、学生一人ひとりの学力や能力を評価したいと考えています。手始めとして、新学部に新しい評価システムを導入し、全学部へと広げていく予定です。これによって、学生自身がどんな力を身に付ければいいのか、あるいは教員がどんな教育を行うべきなのかが明確になり、学びの好循環が生まれることを期待しています。

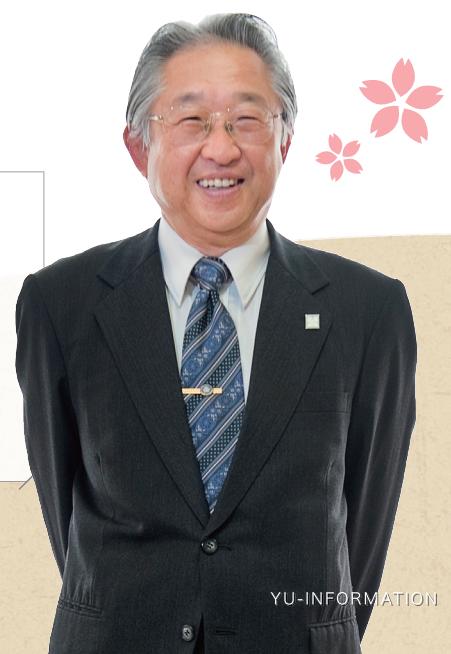
Profile

山口大学 学長

岡 正朗

Masaaki Oka

1981年 山口大学大学院医学研究科修了。医学博士。専門は消化器外科。山口大学医学部教授、同大学附属病院長などを歴任。2014年4月学長に就任。





キャンパス自体のグローバル化も加速

新学部の設置により、外国人留学生の数が増えるため、キャンパス自体の国際化も期待されます。われわれの最終目標は、性別や年齢、国籍にとらわれず、多様な個性や価値観を尊重し合いながら、教育・研究・地域貢献活動を展開していくダイバーシティの実現です。今後も、日本人学生の海外派遣や外国人留学生の受け入れには力を入れていく予定です。そのために、山口大学基金※4を創設し、学生の皆さんを支援していきます。

留学先では、英語がまったく通じなかつたり、多様な価値観や文化に触れたりと、さまざまな経験をすることでしょう。異なる環境に身を置くことは、自分を振り返るきっかけになります。もちろん、物見遊山ではいけません。留学先の学生と交流し、その違いを感じることで、自ずと課題が見えてくるはずです。すべてを感じ取る必要はありません。何か一つでも感じて帰国してほしいと思っています。学生の皆さんには、こうしたチャンスを逃さず、将来のために有効に活用してほしいですね。

地域のための大学として

もう一つ、忘れてならないのは、山口大学は「山口県にある大学」ではなく、「山口県の大学」であるということ。つまり、地域のための大学であるということです。地方大学において、地域貢献は重要課題の一つです。

私は就任以来、山口県内の市長、町長さんのところに出向き、学生教育も含めたご協力をお願いするとともに、地域のお役に立ちたいことをお伝えしてきました。

今年4月には、山口銀行、本学、MOT総合研究所の三者でクラウドファンディング運営会社を設立し、起業家の育成や大学発ベンチャーの創出を加速する取り組みも始めます。学内で完結させるのではなく、地域とのつながりの中で教育・研究を行うことが非常に重要だと捉えています。

出会いと感動を原動力に共に成長を重ねよう！

大学で学ぶということは、なにも教室だけで学ぶことだけを意味するのではありません。クラブやボランティアなどの正課外活動、インターンシップ、あるいは海外留学など、さまざまな場面において学ぶことができます。特に、全学部の学生が吉田キャンパスで学ぶ1年次は、多彩な活動を通して、さまざまな人と知り合い、刺激を受けるチャンスです。ぜひ、人から学び、自らを成長させていってほしい。もちろん、我々教職員も皆さんと共に成長していきたいと思っています。

できるだけ多くの感動体験を重ねることも大切です。感動体験は人を動かす源となります。ですから、各界一流のゲストを招いて特別講義を開いたり、超一流の芸術に触れたりといった機会ができるだけ設けたいと考えています。そこから何を感じて、何をするかは、あなたの次第です。自分がどう成長すべきか、何をすべきか、それぞれが考え、実行してほしいと願っています。

それから、もっと山口県のことを知ってほしいですね。山口県は、秋吉台や秋芳洞に代表される豊かな自然に抱かれ、幾度も歴史の転換期の舞台となった県です。私欲のためではなく、世のため、人のために生きた先人を多く輩出している県だと感じています。こうした精神風土は今も息づいていると信じています。

本学の学生はとても素直で、特に1年生は感受性が強く、物事に一生懸命に取り組む学生が多いように感じています。大学での4年間は、人間形成において最も大切な時期です。特に、スタートの1年次が肝心です。真っ白いキャンバスに絵を描くように、それぞれの夢を懸命に描いてほしいと願っています。

※1…1863(文久3)年、伊藤博文、井上馨ら長州藩の若者5人がイギリスに密航留学。それぞれが日本の近代化に大きく貢献した。

※2…学生自らが主体的に問題を発見し、解決していく能動的学修のこと。

※3…学生の自主的あるいは創造的な活動へ資金支援する、山口大学オリジナルの学生支援事業。

※4…創立200周年を契機に、広く教職員を含む個人や企業団体などからの寄付金を募るもの。

Globalization
Active Learning
Regional Partnership



新入生へ

SPECIAL
FEATURE

山口大学 理事・副学長

田中 和広



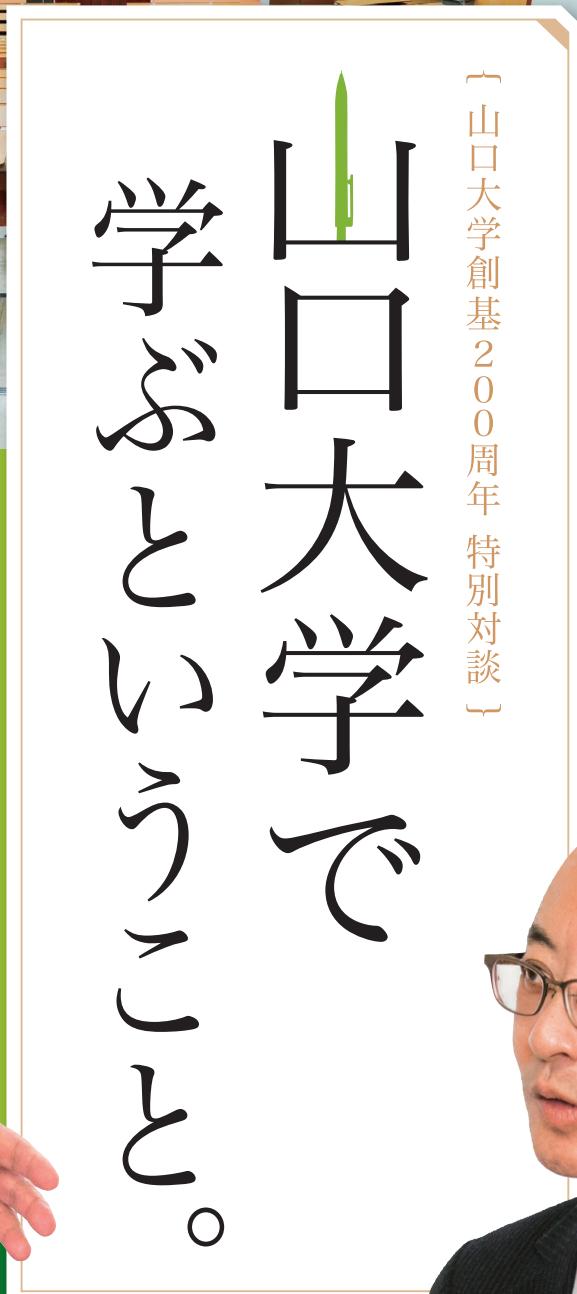
山口大学 人文学部長

根ヶ山 徹

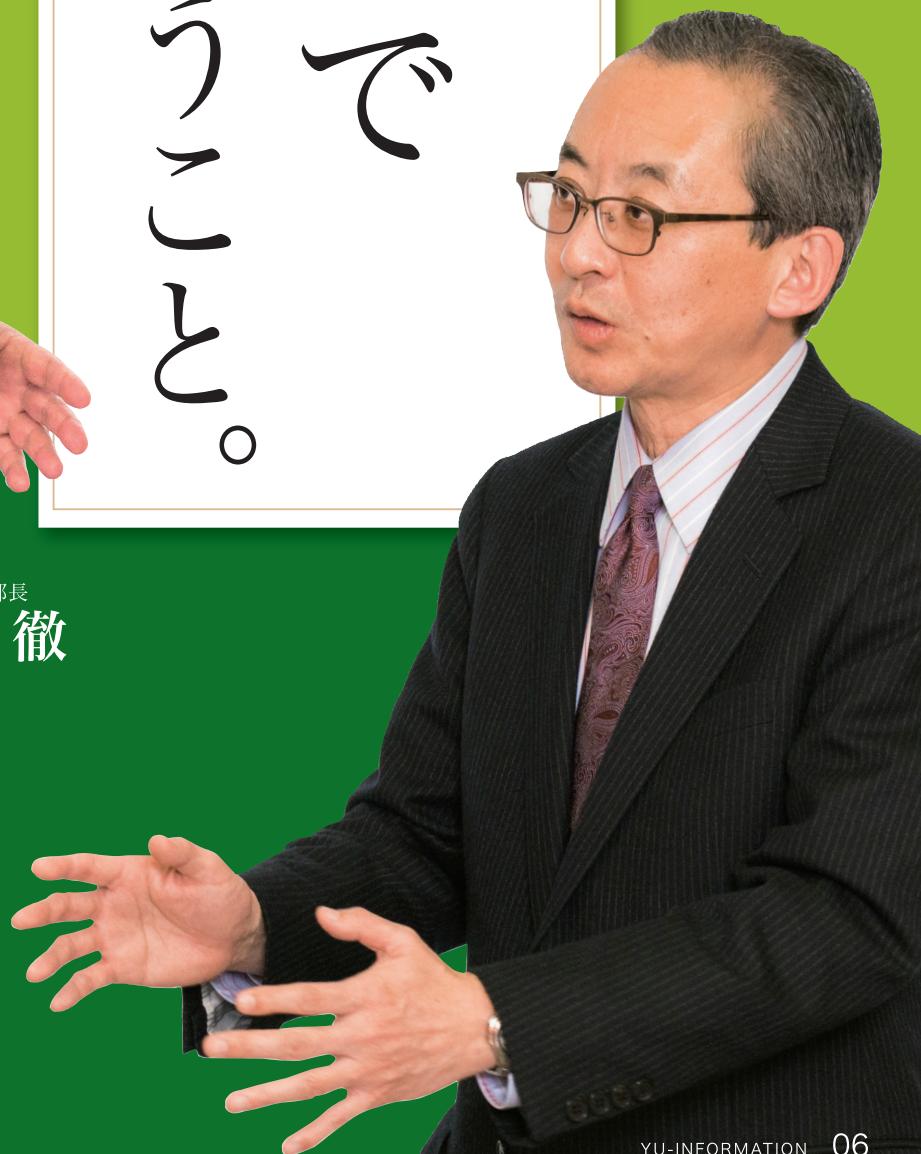
大学での4年間、あるいは6年間は、将来につながるさまざまな出会いが待っています。教員との出会いもその一つです。

今回は、山口大学の卒業生でもある田中和広理事と、人文学部長の根ヶ山徹教授の対談を企画しました。学生時代の思い出話や、大学で学ぶ前に知っておいてほしいこと、山口大学の社会的な役割など、それぞれの思いを熱く語っていただきました。

新入生の皆さんのが学生生活がより意義深いものになることを願って、両先生からの厳しくも温かい励ましの言葉をお届けします！



〔山口大学創基200周年特別対談〕



“ 多様な価値観に
触れよ！ ”



田中：私が学生のころは、今と違つて物が無い時代でしたから、テレビも携帯電話もありませんでした。暇さえあれば、本を読んでいましたね。

根ヶ山：本はたくさん読みましたね。トルストイの『戦争と平和』や、ドストエフスキイの『罪と罰』など、長編小説もたくさん読みました。今読もうと思っても、時間がとれなくて読めませんよね。多感なあの時期に読んだからこそ、感じられたこともたくさんあったと思います。

田中：仲間とよく議論もしましたね。学生運動が盛んな時代でしたから、個人の在り方を問われました。「常識を疑え」などとよく言われたものです。われわれが行動しなければ、世の中は変わらないというくらいの気概をもっていましたね。当時、泥沼化していたベトナム戦争についてどう思うか、といったことを真面目に議論していました。

根ヶ山：意見をぶつけ合うことで、初めてお互いを理解できたのかもしれません。議論することによって、感覚や感情ではなく、論理で人と対話することを学ぶこともできます。

田中：人の価値観やものの見方、考え方、他者に影響されます。どれだけ多くの人と接してきたのかということが、その人を推し量る一つのものさしになると考えています。狭い範囲の数限られた人間関係の中で生きていると、人間としての幅が狭くなってしまうような気がします。学生時代に多くの人と出会い、さまざまな価値観に触れた経験は、就職してから非常に役立ちました。

学ぶ前には精神的な自立を！

田中：高校と大学では、学ぶ内容も学び方も大きく異なります。そのため、入学した途端に、何をどう学べばいいのか分からず、とまどう学生もいるかもしれません。大学はより高度な学問を追究する場です。当然、今まで習っていないこともたくさん出てきます。最初は分からなくて当たり前。だから、学ばなければいけないのです。

根ヶ山：孔子は『論語』「憲問篇」に「古の学ぶ者は己の為にし、今の学ぶ者は人の為にす」と説いています。自分を見だし、自己を高め、さらに豊かにしていくためにこそ学ぶのであって、他人に知られ、認められ、それによって利益を得るのは、

学ぶことの本来の目的ではないのです。

田中：大学時代の恩師からは、学問に対する姿勢を教えてもらいました。あくまで学ぶのは自分ですから、必死になって文献を読み、勉強しました。先生からあまり干渉されなかった事で、自らが考え、学ぶことができたのだと思います。

根ヶ山：私も恩師から手取り足取り教えてもらった記憶はありません。大学で学ぶためには、精神的な自立が必要です。基本的なスタンスは、教えてもらうのではなく、自らが学ぶこと。どれだけ自分の頭で考えたのかが重要だと思います。

田中：答えを教えるのは簡単です。しかし、そうすると、本人の考える機会を奪ってしまうことがあります。ヒントを与えて学生自身が気づくまで待つ。子育てと同様、教員には忍耐力が必要だと感じています。

根ヶ山：われわれ教員が教えられるのは学びのプロセスです。学びを深めるうちに「知る」というレベルから、「分かる」というレベルに到達します。明治元年は1868年であるという年号だけを「知る」のではなく、その周りの状況もすべて理解している状態が「分かる」ということです。学生の皆さんには、表層的ではない、学びの喜びを体感してほしいと願っています。

人材育成こそが大学の使命

根ヶ山：大学の役割は、今も昔も変わっていないと思います。大きな使命は、教育による人材育成です。確かな知識をもった卒業生を世の中に送り出すことこそが、社会貢献、地域貢献につながるものだと考えています。

田中：大学は、物事を論理的に考え、理解し、活用するための幅広い教養を学ぶ場でもあります。

Profile



山口大学 理事・副学長
田中 和広
Tanaka Kazuhiro

1974年 山口大学文理学部理学科地質学鉱物科学専攻 卒業。1977年 九州大学大学院理学研究科修士課程修了。理学博士。1977 財団法人電力中央研究所地質部長。2001年 山口大学理学部教授に就任。山口大学大学院理工学研究科教授、山口大学理学部長、山口大学大学院理工学研究科長を経て、2014年より現職。専門は応用地球科学。



山口大学 人文学部長
根ヶ山 徹
Negayama Tohru

1985年 山口大学人文学部語学文学科中国文学専攻 卒業。1989年 九州大学大学院文学研究科博士過程 中退。博士(文学)。1989年 広島文教女子大学、1993年 広島女子大学、1997年 山口大学人文学部助教授に着任。山口大学人文学部教授、大学院担当教授を経て、2012年より現職。専門は中国文学。

専門知識や技術を身に付けるだけではない、プラスαの部分を身に付けさせる事も大きな役割だと感じています。

根ヶ山：それを裏付けるような面白いアンケート結果があります。昨年、在学生や卒業生に調査した結果、人文学部で一番満足度が高かったコースは「哲学・思想コース」でした。学生からは、「人間とは何か、どういう存在なのかを根源的に問い合わせることができた」といった回答が多く寄せられました。哲学は、実利に直結しません。しかしながら、普遍的な真理を探究することで、さまざまな分野に応用できる考え方を身に付けることができるのです。

田中：真理を突き詰めて、原理原則を見つければ、いろいろなことに適用できます。物事の発想の仕方、考え方を学ぶことは、課題解決能力を高めることにもつながります。



根ヶ山：例えが適切ではないかもしれません、電球が切れたら、なぜ切れたのかを考えるのが大学での学びです。疑問に感じたことを調べ、探究し、真理を突き詰める。考える力をより高めることができるのが、大学での学びだと思います。実は、私は大学の教員になるときに、恩師から「自分の専門分野だけではなく、専門以外のことも“勉強して”教えなさい」との助言がありました。

田中：素晴らしいことを教わりましたね。私は、恩師から「教えようとするからいけない。一緒に学べばいい」と言われて、肩の力を抜くことができたのを覚えています。今でもその教えを忘れずに、学生は共同研究者だと思っています。

根ヶ山：研究者、教育者だからといって慢心せずに学生と共に学ぶ。われわれ教員も、常に一学徒の気持ちを忘れるなということですね。

田中：本学の「共育」の精神に通じるものを感じます。成長していく学生たちの姿を目の当たりにできる喜びは、何物にも代え難いもの。教員としての最大の喜びですね。

果敢にチャレンジせよ！

田中：最近の学生たちの傾向で気になるのは、心が弱くなっていることです。どうせやってもダメだろう、失敗したくないからと物事に取りかかる前から諦めてしまう。しかし、成長するためには、挫折や失敗経験が必要不可欠です。失敗してもへこたれないタフさがほしいですね。

根ヶ山：今はキャリア教育が進んでいるため、小学生のころから将来何をやりたいのかと必ず聞かれます。それが逆にはたらき、考え方を窮屈にしているかもしれません。

田中：世の中全体にいえることだと思いますが、計画的に線引きして直線コースを選ぶ傾向にあると思います。回り道を嫌がり、必要なことだけをして、無駄なことはしない。早く、簡単に結果を出せる最短の道を奨励しているように感じます。人生には回り道も必要です。これしかできない、これ以上できないと勝手に思い込んで、自分の可能性を狭めてしまうのはもったいない気がします。一度きりの人生なのだから、もっと自由に考えてほしい。何をやりたいのかが分からぬ場合は、とりあえず目の前のことに一生懸命取り組んでみる。そうすれば、だんだんと面白くなってきて、次の道が開けてくるはずです。理屈は要りません。きっかけは「なんとなく」でも、「好きだから」でも良いと思います。

根ヶ山：本学は、学生のモチベーションさえあれば、何でも挑戦できる優れた環境だと思います。われわれ教員は学生の成長の手助けをすることはできます。しかし、やりたいことをみつけるのも、成長するのも学生自身です

田中：自分の置かれている環境を少し変えてみるのも一つの方法です。留学なり、インターンシップなり、学外へ出て、外から自分を見つめ直すと、見える景色が変わってくるはずです。止まっている限り、景色は永遠に変わりません。今は無理でも、これから頑張れば手が届くかもしれないという未来へ向けて常にチャレンジすることを忘れないでほしいですね。

スタートの一年目が肝心！

田中：創基200周年にあたる今年は、本学が新たなスタートを切る年です。新入生の皆さんには、大学入学を新たな人生の出発点と捉えて、一步前へ踏み出してほしいと思います。

根ヶ山：大学入学はゴールではなく、スタートで

す。ゴールは人生の最期を迎えるとき。その時にならないと、納得のいく人生だったかどうか結論は出ないと思います。

田中：スタートラインは皆一緒です。努力次第で大臣にも社長にもなる。少なくともわれわれの頃はそのように思っていましたね。チャンスはみな平等、可能性は無限に広がっています。

根ヶ山：チャンスをつかめるかどうかは学生の皆さん次第です。チャンスをつかむためには、日頃から努力して準備をしておかなければいけません。地方だからチャンスがないということはありません。本学には、自分が動くためのきっかけがたくさんあります。ただし、自分から動かないことには何も始まりません。

田中：大学時代はモラトリアムの期間です。悩み、考え、これから何をしてどうやって生きていいくのかを決める場所です。就職活動の際には



「あなたが人に誇れるものは何ですか」と必ず問われます。意外と答えられないという学生が多いようです。卒業時に自信をもって自分をアピールできる何かを身に付けて、社会へ羽ばたいてほしいですね。古い言葉ですが、学生には「少年よ、大志を抱け！」と背中を押したい。小さくても、漠然としていてもいい。目標さえあれば、4年間をどう過ごすのかが自ずと決まります。例えば「世界で活躍したい」と思えば、まず英語力からというように…。

根ヶ山：本当にあつという間に4年間が過ぎてしまいます。世阿弥の『花鏡』のなかに「初心忘るべからず」という言葉があります。「初」という字は「ころもへん」に「刀」と書きます。最初に布をどう断つのかによって、すべてが決まってしまう。何事も最初が肝心なのです。

田中：未来は学生の皆さんのがんにかかっています。日本を、そして世界を変えてみせるというくらいの気概をもって、有意義な学生時代を送ってほしいと切に願っています。

GLOBAL Education

地球温暖化や環境問題といった地球規模の問題が深刻化する中、国籍や人種、価値観といったあらゆる壁を越え、持続可能な経済発展に貢献できる人材が強く求められています。こうした背景から、山口大学では、国際総合科学部を教育機能強化のエンジンとして、グローバル化を見据えた人材育成を進めています。山口大学が考えるグローバル人材とはどんな人材なのか。グローバル人材育成に向けた取り組みについて、留学生センター長の福屋利信 教授に語っていただきました。

未来を切り拓く グローバル人材 育成に向けて



Profile

山口大学教授
大学教育機構 留学生センター長

福屋 利信 Fukuya Toshinobu

1994年 佛教学文学部英米文学科卒業。2000年 イギリス・ノッティンガム大学留学。2001年 佛教学文学研究科英米文学専攻博士課程修了。博士(文学)。2012年より現職。専門は、ピートルズや英米ロックなどの大衆文化研究。ラジオのパーソナリティー、国内外でのトークショーおよび講義も多数。



リスクテイキングを恐れない 強い人材を育成

少

子高齢化の進展による日本の人口減少は年々深刻化しており、2050年には1億人を切るといわれています。それに伴い、国内市場の縮小や労働力不足による経済の衰退といった多くの問題が浮上しており、国内市場に依存してきた日本経済は厳しい状況に置かれています。もはや、グローバル化は、観念論ではなく、客観的な事実です。グローバル化を抜きにしては、日本経済が維持できない局面を迎えているのです。

では、時代が求めるグローバル人材とはどんな人材なのか。私なりの一言で表すと、競争力のある「強い人材」です。異文化摩擦や治安問題といったリスクを恐れて競争しない「弱い人材」では、グローバル競争社会を生き抜くことはできません。競争に打ち勝つためには、ちょっとやそっとでは諦めないねばり強さや打たれ強さが必要です。コミュニケーション能力や課題解決能力といった社会人基礎力も強く求められています。こうした時代の要請に応えて誕生したのが、山口大学の国際総合科学部です。

グローバル化推進の トップランナーとして

国際総合科学部は、「デザイン科学」という新しい学問体系に基づく学部です。デザインといつてもファッションや建築のデザインではありません。マーケットのデザインです。ここには、ビジネスの基本である市場調査だけではなく、新たな市場を開拓する意味も含まれて

います。分かりやすく表現すると、工学部が製品を生み出すのに対して、その製品がグローバル市場で売れるようにするのが国際総合科学部の使命です。

そして、マーケットをデザインする上で必要なのが、文理融合的な幅広い学識です。マーケティング活動を数値化するための数学的な知識や製品に関する知識など、イノベーションを生み出すための分野を越

えた基礎知識を身に付けます。

もちろん、ツールとして使いこなせる高い英語力やコミュニケーション能力も必須条件です。本学部では、1年生の夏の1ヵ月、フィリピンセブ島での語学研修を用意しています。2年生の後期からは、1年間の海外留学を経験します。帰国後は、英語による講義やプレゼンテーション、ディベートなどを通じて、声や表情、振る舞いといった非言語なコミュニケーション能力にも磨きをかけます。卒業要件としては、TOEIC730点以上の取得を設定しています。

課題解決能力を養うため、地域連携にも力を入れています。グローバルな課題は地域社会の現場で現れるという観点のもと、地方自治体や地元企業などと一緒に、さまざまな課題にチームで取り組み、より実践的な課題解決能力を身に付けます。

本学部は、グローバル時代に全学で対応していくためのトップランナーになりたいと考えています。スタートしたばかりの本学部に入学した新入生の皆さんの期待を裏切らないよう、責任をもって大切に育てていきたいと考えています。

キャンパス自体が 国際交流の場に！

国際総合科学部の誕生によって、キャンパス自体のグローバル化も期待されます。2年次に行われる海外留学は交換留学ですので、海外へ留学する日本学人学生と同数(100人)の海外からの留学生を迎えます。すなわち、学内においても日常的に国際交流ができる環境となります。日本人学生は日本にいながらにして異文化交流や実践的な英語力を高めること

が可能となります。

学内だけに留まらず、地域への波及効果も期待できます。海外からの留学生を、地域のイベントや行事に参加させて、地域住民との交流の機会を増やします。加えて、留学生が出演するラジオ番組の制作も行います。このような諸活動を通して、地域全体の国際化にも貢献していきたいと考えています。

外国人留学生のキャリア形成や就職支援にも力を入れています。本学における2013年度の外国人留学生の就職率は約60%と、全国的に見ても非常に高い数字となりました。外国人留学生の皆さんには、卒業した後も山口に留まり、地域に貢献してほしい。母国に戻っても、日本との橋渡し役となってほしいと考えています。

国際感覚を養うための 基礎体力を鍛える

世界に通用する人材となるためには、まず日本のことを探り、異文化や多様な物の考え方を受け入れる土台を養うことが必要です。このような考え方から、幅広い教養を身に付けることを目的に、全学部対象の共通教育科目を開設しています。その中の一つ、「山口と世界」という科目は、国際総合科学部の教員を中心に展開していきます。山口と世界を結ぶノウハウを、さまざまなテーマにおいて修得します。

グローバルスキルを高めるためには、海外経験も欠かせません。そこで、海外協定大学への留学や語学研修プログラムなど、海外体験の機会を多く設けています。さまざまな海外留学支援制度や留学サポート体制にも力を入れています。ぜひ多くの学生に利用してもらい、海外体験のチャンスをつかんでほしいと願っています。

今後は、国際関連のシンポジウムや講演会なども企画し、積極的に情報発信を行うとともに、大学全体のグローバル化を推進していくたいと考えています。

変えるべきもの 守るべきもの

グローバルに活躍するためには、われわれ日本人の意識を変え、多様な価値観を認めることも必要です。自分の主張だけを押し通すのではなく、相手の主張も一旦受け止めた上で、互いの主張を尊重できる妥協点を見出していく。このとき大切なのが、言うべきことを徹底的に言い



合うことです。なかには、波風を立てずに仲良くすることがパートナーシップであると勘違いしている人もいるかもしれません。しかし、どちらか一方が我慢して出した結果に対しては、モチベーションが低くなってしまいます。摩擦を恐れずに本音でぶつかった結果として生まれたものこそが眞のパートナーシップだといえます。そのパートナーシップを「和」と呼ぶのであって、それをなさずに生まれる関係はサークル仲間のような「輪」でしかありません。

グローバルな競争社会においては、全員が主役、全員が金メダルを獲得できるわけでは

ありません。だからこそ、競争に負けたときの悔しさをバネにして努力することが大切です。一流のスポーツ選手が「今日の試合は楽しめました」と言えるのは、血のにじむような努力を重ねているからです。「楽をする」と「楽しむ」を勘違いしないでほしいと思います。学生の皆さんには、楽しむための努力を惜しまないこと、競争の楽しさと厳しさの両面を教えていきたいと思います。

グローバル社会においては、その場で判断を下すスピード力も求められます。そのため「報(報告)・連(連絡)・相(相談)」という日本のビジネススタイルは、グローバルマーケットでは通用しません。会議の場において「持ち帰って上司に相談します」では遅いのです。なぜなら、その相談をしている間に仕事は他者にとられてしまします。もしくは、相談する上司がその

会議に参加するべきだと考えるのがグローバル社会の常識です。これを解決するためには、会議に臨む個人に権限を委譲すること、委譲された個人は責任をもって判断し、決断することが必要です。もちろん、決断には責任が伴います。失敗した際に、その責任を負う覚悟が求められます。日本の「報・連・相」スタイルは、日本ではみんなで責任を取ることで理解されていますが、グローバル化社会では、誰も責任を取らないとみられてしまうのです。実は、それは本当かも知れません。

一方で、忘れてはならない大切な要素もあります。それは、歴史や文化に根ざした日本人としてのアイデンティティです。真面目で誠実、約束を守る、礼儀正しいといった日本人の気質は、海外で高く評価されています。こうした日本人の良さ、日本の良さを自覚することも大切です。日本人として守るべき価値観と、捨てるべき価値観の見極めをつけることは、グローバル人材として活躍するための前提条件といえるでしょう。

Student's Voice

[留学経験者の声]

人文学部言語文化学科2年

古谷 涼 さん

CIP語学学校(フィリピン)／短期英語研修(1か月)
広州大学(韓国)／人文学部海外調査研修(1週間)
中興大学(台湾)／サマープログラム(2週間)

先生の勧めで、1年次の春にフィリピンの語学学校での英語研修に参加しました。自分にとっては初めての海外体験でしたが、これを機に一気に世界が広がった気がします。能動的に情報を収集し、興味を感じたらまずは行動するよう心がけるようになり、短期で韓国や台湾で行われた海外研修にも参加しました。今年は、アメリカのオクラホマ大学へ1年間の交換留学を予定しています。

人文学部国際経済学部3年

李 知憲 さん

シドニー工科大学(オーストラリア)／
交換留学(1年間)

韓国の高校を卒業後、正規生として山口大学に入学しました。さらに、交換留学制度を利用してオーストラリアに留学しようと思ったのは、ともすれば内向きになりがちな自分を変えたいと思ったからです。渡豪当初は、周りの人がはなしている英語が理解できずガチガチになっていましたが、寮のチームメイトに支えられ勇気を出すことができました。子供だった自分から自立した大人へと成長する機会となりました。

教育学部総合教育文化課程4年

吉永 正宏 さん

国立中興大学(台湾)／交換留学(1年間)

中興大学は、英語教育のレベルが高く日本人学生が少ないので、中国語だけでなく、英語を学ぶにも最適な環境です。英語力アップを目指す場合、アメリカやイギリスへの留学を考えがちですが、「この言葉を学ぶにはこの国でなければ」ということはありません。非英語圏の国にも優れた英語学習プログラムを持つ大学はたくさんありますし、日本語が通じない環境では、どこの国であっても英語は有効なコミュニケーションの手段となります。

人文学部人文社会学科4年

平井 優香 さん

仁荷大学(韓国)／交換留学(1年間)

山口大学で韓国人留学生のチューターをしたことが、韓国語を学び始めたきっかけでした。留学生たちに教えてもらしながら独学でのスタートだったので、留学を決めた時期も遅く、迷ったり、韓国語を専門に学んでいる人たちと自分を比べて悩んだりしたことありました。ですが、迷うのであれば、まずは行ってみるべきですし、行ってしまえば努力するしかありません。その努力は、大きな自信となって必ず自分に返ってきます。

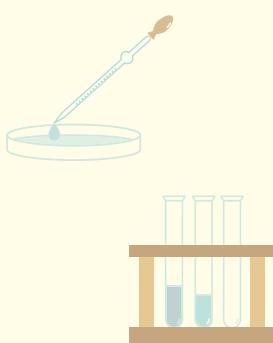


『グローバル・イングリッシュならフィリピンで』 福屋 利信 著

海外英語研修は英語母国語圏でなくてはならないという神話は既に崩壊しつつある！グローバル時代に通用する人材を目指すなら、まずはフィリピンで英語力を鍛えよ！圧倒的な費用対効果により今注目を集めているフィリピン英語研修の優位性を説いた書。



研究の面白さを伝えたい 未知の世界を解き明かす



Profile

山口大学理工学研究科 地球科学専攻
博士前期課程(修士課程)2年

藤井 美南 Fujii Minami

より多くの学生に研究や本学の魅力を感じてもらうため、先輩リケジョからのメッセージをお届けします。

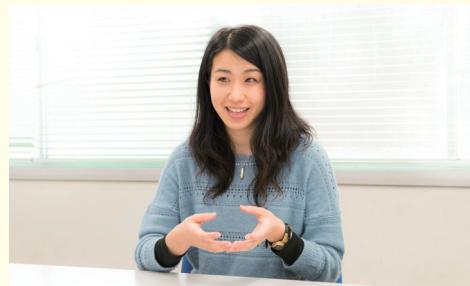
文系から理系へ転身

高校で地学を選択し、地震に興味を持ちました。大学受験の際は、「面白そう」という自分の興味の強さを信じて、地球圏システム科学科への進学を決めました。理学部というと、理科や数学が得意な人が進学するイメージが強く、実際、他大学では受験科目に理系数学や理科2科目が課されていることが多いのですが、山口大学の地球圏システム科学科は受験教科・科目の選択の幅が広く、自分の得意分野を活かして受験に望むことが出来ます。実は、高校時代は文系に属していたのですが、そのおかげで興味を持った理系の道に進むことが出来ました。

地球圏システム科学科では、地球や惑星を構成する物質や資源、地球の構造や変動メカニズムなど、地球科学に関するさまざまな専門知識を学べます。山口県は、秋吉台やホルンフェルスに代表されるような岩石や地質の変化に富んだ場所がたくさんあります。研究対象が身近にあるため、山口で地質学を学ぶメリットは大きいと思います。

海底の地質から地球の変動を探る

4年生のときに、海洋地質学を専門とする川村喜一郎准教授の研究室を志望しました。この研究室では、地震や津波の発生メカニズム、地球環境の変動など、海底で生じているさまざまな事象について研究を行っています。



2011年8月末には、3月に発生した東日本大震災の地震と津波による海底の影響を調べるために、独立行政法人海洋研究開発機構、アンジェ大学(フランス)、山口大学、高知大学の研究者らの研究グループに参加しました。青森県下北半島沖において海底の土(地質学では堆積物という)を採取し、その分布を調査した結果、通常の海底とは粒度や堆積構造の異なる堆積物が確認されました。また、堆積物中に生息する有孔虫類についても調べた結果、津波による激しい潮の流れや擾乱の影響を受けていたことが明らかになりました。この成果は、下北半島沖において、地震・津波が海底へ及ぼした影響をまとめた最初の報告であり、今後の研究に重要な指標となり得るものと期待されています。

今回の研究は、生物学や物理学など、ほかの分野の研究者との共同研究だったため、自分の専門以外のこと勉強する必要があったため大変苦労しました。しかし、さまざまな研究者との交流を通じて、知識の幅を広げられたことは私にとって大きな収穫でした。

研究は発見や驚きに満ちた世界

想像力を働かせながら仮説を立て、それを実証する。まだ明らかにされていない真実を、自分の手で解き明かしていくことが研究の醍醐味です。研究というと、朝から晩まで実験ばかりしているイメージがあるかもしれません、そんなことはありません。調査船に乗って海底の堆積物を採取するなど、フィールドワークも多くあります。先生いわく、この分野は「理系でも文系でもない体育会系」だそうです(笑)。また、研究以外にも、部活動やアルバイトを経験するなど、充実した学生生活を送っています。

将来は、公共建築物の基礎調査や地質調査、設計などを行う建設コンサルタント会社への就職が決まっています。これまで培った研究スキルをフルに生かして、広く社会に貢献していくと考えています。

大学に入ると、講義資料や論文などで英語に接する機会が増えるので、英語は勉強しておいて損はありません。大学生活はあっという間です。皆さんも、自分だけの「楽しい」を見つけて、将来につなげていってください!

What's New?

YU-PRSS

《 学生スタッフYU-PRSSがお届けする、山大の最新情報 》

YU-PRSSとは？

ユープラス

広報誌「YU-INFORMATION」や、
山大のWEBサイト内の「キャンパス
ライフ」ページなどの制作に携わる、
山口大学広報学生スタッフです。

YU-PRSS(“Yamaguchi University Public Relations Student Staff”的略)は、「山大生のあなた(YOU)にも、そうでないあなた(YOU)にもプラスになる情報を届けたい」との想いを込めてつけられました。現在17名のメンバーで広報活動を行っています。



YU-PRSSメンバー

入江 貴博	武田 一志	近藤 守
石井 沙希	小形 智樹	佐能 潤子
中富 真奈	中山 拳太郎	伊藤 姫花
長岡 真大	原田 海沙	宮地 弘子
倉増 沙和	横山 侑里	木村 将也
田里 翔太	浅沼 莹	

感想、取材依頼など、YU-PRSSにお気軽にメールしてください！

今月号についての感想や、今後こういった特集はどうだろうといったアイデア、こんな人を取材してほしいといったご要望も受け付けています。また、「私たちを取り扱ってほしい」といったサークルやグループも大歓迎です。たくさんのメールをお待ちしています。

E-MAIL: campus@yamaguchi-u.ac.jp

「キャンパスライフ」はコチラをCHECK! >>
http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/

01 国際総合科学部シンポジウム 「デザイン科学で世界を切り拓く」を開催

11月24日(月)、山口大学吉田キャンパスにおいて、国際総合科学部シンポジウム「デザイン科学で世界を切り拓く～世界の街角で異文化に発熱しても、決して仕事をあきらめないタフなグローバル人材を育てる～」が開催されました。

学長からの開会挨拶、糸長国際総合科学部設置準備委員長から国際総合科学部の概要説明に続いて行われたパネルディスカッションでは、本学福屋信利教授のコーディネーターのもと、パネリストの山崎麻紀氏(株式会社ユニクロ)、稻垣公裕氏(ヤフー株式会社)、山中左衛門氏(株式会社帝国ホテル)、井上英之氏(株式会社Office慧)、椎木巧氏(周防大島町)、徳久悟氏(慶應義塾大学)らが、国際総合科学部が掲げるデザイン科学と社会で実践されているデザイン科学、国際総合科学部で養成するグローバル人材と企業が求めるグローバル人材等について、意見交換を行いました。



02 岡学長をはじめ山口大学執行部が 建学の祖 上田鳳陽のお墓参り



1月5日(月)、岡正朗学長をはじめとする山口大学執行部らは、山口市大内御堀にある乗福寺において、上田鳳陽先生の墓参りを行いました。

参拝者一同、鳳陽先生の墓前に線香や花とともに山口大学ブランド日本酒「長州学舎」等を供え、山口の地に文教都市の礎を築いた鳳陽先生に感謝するとともに、山口講堂以来の歴史を振り返りつつ、先人たちの志をこれから200年につなぎ伝えるべく、今後の教育研究活動を推進していくことを誓いました。

03 海外大学／大学院留学説明会を開催

1月9日(金)、山口大学の吉田キャンパスと常盤キャンパスを遠隔講義システムで結び、米国大学院学生会と共に海外大学／大学院留学説明会が開催されました。

米国大学院学生会は、米国学位留学経験者による団体で、学位留学を志す日本人学生に、留学に関する情報やノウハウを提供しています。

山口大学は、現在、大学をあげて「学生の国際化」に取り組んでおり、本説明会は、これから時代に求められる国際マインド、在学中の留学、卒業後の学位留学についての最新の情報を提供し、留学に役立ててもらおうと実施されたものです。



YU-INFORMATION

ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌 Vol.122

山口大学総務部広報課
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5007 FAX:083-933-5013
E-MAIL:sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL:<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

今月の
NEWS &
TOPICS

04 創基200周年記念学術講演会

1月28日(水)、2014年ノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学教授 天野浩先生をお招きし、工学部D棟11講義室をメイン会場として、山口大学創基200周年記念学術講演会「青色LED誕生までの道のり～若者へのメッセージ～」が開催されました。

天野先生は、「若い皆さんが将来ノーベル賞を受賞した際の参考のために」と前置きし、ノーベル物理学賞の受賞式や受賞の際のエピソードなどを交えて披露、その後、青色LED誕生まで粘り強く研究を続けた苦労話、LEDの省エネへの貢献、医用分野への応用の可能性などについて分かりやすく講演されました。

講演会は、遠隔講義システムを利用し、中継会場として工学部D21講義室、D31講義室および吉田キャンパスの大学会館へも同時配信され、全会場で一般市民を含む約800名の参加がありました。



05 正課外活動について語る 「自主活動交流会」を開催

2月12日(木)、第二学生食堂からにおいて「自主活動交流会」が開催されました。学生自主活動ルームを通じて地域活動やボランティア活動に取り組む学生、独自の企画を立ち上げて運営している学生、自分の得意なことを活かした企画に取り組む学生、「おもしろプロジェクト」採択団体の学生など、全学部、全学年から約50名が集まり、ワールドカフェ方式で、メインテーマ「山口大学のこれからのおもてなしについて考える」について語り、交流を深めました。



EVENTSCHEDULE

4 APRIL

03 金 山口大学大学院及び山口大学入学式
場所:スポーツ文化センター

04 土 新入生歓迎フェスティバル
場所:吉田キャンパス

09 木 前期授業開始

「イベントスケジュール」

5 MAY

30 土 創基200周年記念式典

6 JUNE

01 月 創立記念日

23 火 名誉教授称号授与式・
名誉教授懇談会
日時:平成27年6月23日(火)
場所:大学会館

7 JULY

11 土 第43回 七夕祭
日時:平成27年7月11日(土)
場所:吉田キャンパス

「志」つなぎ伝える
二百年



創基200周年
山口大学

2015年、山口大学は創基200周年を迎えました

2015年度 創基200周年NEWS

山口大学では、200年の歴史を多くの皆様に伝えるための講演会、シンポジウム、また、地域のニーズに合わせた様々な行事、学生の企画によるイベント等の各種記念事業などを実施します。

ここでは、それら創基200周年に関連した最新ニュースを紹介していきます。



山口大学
キャラクター
「ヤマミイ」

創基200周年記念 ワールドカフェを開催

12月18日(木)および2月13日(金)の2回にわたって、「創基200周年記念ワールドカフェ」が開催されました。ワールドカフェとは、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で自由に対話し合う意見交流会です。2015年に迎える創基200周年を大学全体で盛り上げることを目的に、インターンシップの学生が企画しました。

参加学生らはグループに分かれ、「創基200周年記念事業を学生として企画しよう」をテーマに話し合い、様々な企画を創り上げました。

第1回目、12月18日開催のワールドカフェには19名の学生が参加しました。4グループに分かれた学生たちは、ホスト役の学生を中心に思い思いの意見を出し合い、「食堂で200周年限定メニューを提供する」、「人文字でヤマミイを描き航空写真を撮影する」、「ヤマミイのLINEスタンプを作成する」等の企画を提案しました。この日、最優秀賞となったのは、サークルや出身国・地域のグループが、それぞれの地域の食を紹介するという「食フェス開催」の企画でした。



第2回目の2月13日には、20名の学生が参加、5グループに分かれて話し合い、企画を発表しました。「200年前の山口大学生の1日を再現する」、「200周年祭の開催」、「県内在住者200人を招待しての山口をめぐるツアーの実施」、「山大全員参加の山口県日帰りバスツアーの実施」等の企画が提案され、最優秀賞に輝いたのは、山口大学の学生、教職員らが協力して200kmを走り、ランナーに密着し、それをドキュメンタリー映像にすることを企画した「200km駅伝」でした。

参加した学生からは、「創基200周年の年に在学できてうれしく思う」や「参加するまではあまり興味がなかったが、参加することで200年について深く考えることが出来た」等の感想があり、「創基200周年」に思いを馳せる良い機会となったようです。

「創基200周年記念やまだい瓦版」発行

2015年に創基200周年を迎えるにあたり、卒業生や在学生へ情報を発信し、改めて大学との結びつきを感じてもらうために、「創基200周年記念やまだい瓦版」を発行しました。瓦版には、岡学長、創基200周年記念事業担当の田中理事をはじめとし、在学生、卒業生らの創基200周年に対する熱い思いのこもったメッセージが収められています。取材に携わったインターンシップ生は、編集後記に「この瓦版で、多くの方々に山口大学の創基200周年が伝わることを願っている」との思いを綴っていました。

瓦版は、在学生、平成26年度卒業生の他、同窓会を通じ同窓生への配付を予定しています。



創基200周年の詳細はここでCHECK! > <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/200th.html>

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽により創設された「山口講堂」をルーツとし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。2015年(平成27年)、創基200周年を迎えます。山口大学は、地域に根ざした大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる200年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。